

西光寺だより

第一一六号 令和二年 四月一日発行

花咲き、鳥歌うあたたかくおだやかな季節、4月となりました。

寒い冬を越え、あたりまえで特別な季節の移り変わりに、ホッとできる春。

自然の慈しみの中、生命あふれる櫻花を愛でながら、生かされて生きていることの実感を味わいながらゆつくり、ゆつたりと過ごせればと思うばかりであります。

特に今は、新型コロナウイルス感染症の拡大が止まらない状態で、不安な日々が続いています。

イベントや式典は軒並み中止・延期となり、小中高は春休みまで休校となりました。今年開催の東京オリンピックまで延期となりました。

本願寺におきましても恒例行事の「春の法要」が感染症の影響で、特別布教ならびに、書院・飛雲閣などの特別公開が中止となりました。四月十三日～十五日までの春の法要はお勤めのみのお厳修となります。

大阪の本願寺津村別院におきましても春季彼岸会は、感染症が拡大する現況に鑑み、別院僧侶が大切にお勤めする配慮をされておられます。

そんな中、今年四月の西光寺の春季永代経法要。感染症の影響で近隣寺院・総代様との協議の結果、自粛とし、布教師のご法話は中止し、席との間隔を開け、換気しながら皆さんで正信偈のお勤めをさせて頂き、ご先祖様への感謝の法要を行いたいと思います。

なお、春季永代経法要での追弔会法要、物故者の方は、秋季永代経法要にてお勤めさせて頂きたく思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

どうぞ皆様様、正しい情報を得ながら、自粛をしながらもせめて家の中の気持ちだけでもゆつたり・おだやかに過ごしていただきたく思うことでもあります。一日もはやく普段の生活に戻ることを願うばかりであります。



阿弥陀さま

おまかせします

南無阿弥陀仏

あなたは、誰かに任せることができますか。

任せるということは、相手を信用・信頼してこそできること。

何の疑いもなくすべて相手に任せることができる、そんな存在が阿弥陀さまであります。

私たちは、仕事・家庭、さまざまな場面で色々な人に頼りながら、任せながら生きています。

けれど、すべてを任せることは、なかなか難しいことでもあります。

阿弥陀さまは人々の悲しみをわがこととして悲しみ、人々の喜びとともに喜んで下さります。だれも、私の悲しみを分かってくれなくても、阿弥陀

さまだけはわかってくださいます。

そのお心から、不安の中に生きている私たちを、必ず浄土に救いと

『我にまかせよ』と誓われました。

私たちはただただ任せるだけ・任せきるだけではありません。

だからこそ安心の日暮しができる、一日一日を大切に生きることができます。

「阿弥陀さまにおまかせします」の意味である『南無阿弥陀仏』を称える時、略して「なまんだぶ」と称えます。

どうぞお参りの際は、手を合わせてお称え下さい。

一度限りの人生を精いっぱい生きるために。

●今月のことば●

ぼくが ここに

まど・みちお

ぼくが ここに いるとき

ほかの どんなものも

ぼくに かさなつて

ここに いることは できない

もしも ゾウが ここに いるならば

そのゾウだけ

ママが いるならば

その一つぶの ママだけ

しか ここに いることは できない

ああ このちきゅうの うえでは

こんなに だいじに

まもられているのだ

どんなものが どんなどころに

いるときにも

その「いること」こそが

なにも まして

すばらしいこと として

この詩について万葉学者の中西進先生は、「この詩は、一人ひとりが、かけがいのない存在として、いまここにいるのだということを訴えた」作品である旨を語っています。

そして次のようにいっています。「いま」という時点は他にない。「此処(ここ)」という地点も他にない。そしてそこにいる自分も。もちろん他人のどの一人ともちがう「ぼく」だ。

今の私たちは、こうした自覚があるのだろうか、と問いかけています。社会で問題視される昨今の子供事情は「自分の存在」という問いの気づきとともに、自分自身の力でそれを理解しようという能力が乏しいように思います。すべては与えられるもの、その結果、見つける能力に欠けているのではないかと思うのであります。へ「ぼくがここに」から思うこと 思考の部屋より

小学校の教科書に載せられていたこの詩を通して、子供たちも私たちも「今ここにある」ことを、その尊さを決して忘れたくないものであります。合掌



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七二

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>

◆四・五月の行事◆

・四月 四 日(土)

春季永代経法要

午後二時～午後二時四〇分

※新型コロナウイルス感染症自粛のため正信偈の
お勤めのみ行います。

西光寺本堂